

令和4年度第2回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：美作国“美味し国”プロジェクト ～食による観光振興～
- 2 日時：令和4年8月9日（火） 13：30～14：40
- 3 場所：ザ・シロヤマテラス津山別邸 テラスバンケット桜華
(津山市山下 30-1)
- 4 参加者：美作国“美味し国”プロジェクト関係者6名

5 知事挨拶

岡山県には美味しいものがたくさんあるが、全国的に誰もが知っているようなものは少ない。今回の“美味し国”プロジェクトでせっかくできた美味しいものを、今後どのように外に向けて発信していくか、考えていくことが重要となる。

プロジェクトを通じ、「食」による観光振興に取り組む皆様から、参加の経緯や思い、参加して感じたことや新たに発見した課題や可能性、今後のプロジェクトに寄せる思い、課題解決に有効なアイデアなどについてお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介、参加経緯】

- ・美作大学1年時の調理実習が始まるタイミングで、当プロジェクトの紹介を受け参加した。大学は県内出身の学生が3割程度で、他県からの学生が改めて美作地域の食材を発見できる機会となった。
- ・多くの料理コンテストに応募していた中で、当プロジェクトの話を知り、ビーガンメニューというテーマに惹かれて参加した。
- ・津山観光センター内で店を運営しているが、観光客に「そずり肉」について尋ねられることが多く、認知度向上を図りたいと思っていた中で、当プロジェクトの話を知り、参加を決めた。
- ・普段はホテルで勤務をしているが、コロナで悶々とした状況の中で、当プロジェクトの話を知り、何かできることはないかと思い参加した。
- ・市の観光政策課で観光振興、誘客促進を行っている。当プロジェクトでは、認定メニューを拡大していく役割を担っている。
- ・ビジット奈義というDMOの組織で、行政や地域の方々と協力して、地域を盛り上げるための取組を行っている。当プロジェクトを通じて県北の魅力を再発見することができたと感じている。

【成果や課題、取り組みを通じて感じたことなど】

- ・津山市だけでなく、美作地域全体の食材を使用し、試作を重ねて、ワンプレートメニューを開発した。そずり肉のコロッケが一押しである。
- ・このプロジェクトをきっかけにビーガンについて勉強し、ビーガンメニューを開発した。野菜の魅力やその活かし方、ビーガン食の奥深さを感じ取ることができた。新開発メニューの中間発表会から最終審査会までに改良を重ね、納得のできるメニューを開発することができた。
- ・そずり肉を使用し、だれでもがつつり食べられるメニューを開発した。多くの方々に楽しんでいただけるよう、丼ものとし、テイクアウトでも楽しめるようにした。
- ・酒蔵やビールの醸造所を回り、試飲を重ねて、日本酒のポジショニングマップを作成した。その過程で、美作地域には味のバラエティに富んだお酒がたくさんあることを認識した。多種多様なお酒があることで、自分好みのものを探しやすいと思う。
- ・プロジェクト始動時は、美作国観光連盟の事務局として携わっていた。美作市はほかの市町村と比べて、食のコンテンツが弱いのが課題。当プロジェクトを通じて、美作市の特産品である、黒豆やもち麦をビーガンメニューとして活用していきたい。
- ・奈義町は地域特産の食材はあるけれど、提供店舗が少ないことが課題だ。当プロジェクトで2店舗が新メニューを開発した。店舗によっては、当初のメニュー内容とは変化したところもあるが、地域の旬の食材を活かして、料理の腕をいかんなく発揮し、結果的に素晴らしいメニューができている。また、協力店舗、行政、DMOといった横のつながりができたことは当プロジェクトの成果である。

【今後の取り組み、効果的な支援、アイデアなど】

- ・コロナの状況もあるが、当プロジェクトで開発したメニューを披露する場として、食のイベントが開催できれば良い。SNS等で広報活動を行い、当プロジェクトの認知度向上を図りたい。
- ・若者の視点からの意見だが、InstagramやTikTokなどのSNSを積極的に活用して、認知度向上を図ることが必要と考える。今回開発したメニューは駅弁のような形で提供したい。
- ・SNS等で当プロジェクトの発信を行っている。高校生が開発したメニューを当店で提供できるよう現在準備を進めている。提供の幅が広がることで、認知度向上につながればと思う。
- ・当プロジェクトのビーガンメニューの着眼点は良いなと思う。ビーガンメニ

ューとしての制約に注意しながら、メニューの開発を継続し、美作エリアをビーガンの側面から盛り上げていきたい。

- ・行政としては、当プロジェクトの認知度向上を進めていくのが仕事である。現在、デジタルスタンプラリーを実施しているが、そういった取組を今後も継続していきたい。
- ・当プロジェクトを通じて自分自身、他業種の方々と多く関わることができた。田舎ならではの温かさといった、地域の人との関わりも含めて旅の目的となれば良いなと考える。地域で昔から食べられているような伝統的なメニューについても、もっと提供の場が必要なのではないかと感じる。

【知事まとめ】

- ・県や市町村でも色々なプロジェクトがあるが、学生、お店の経営者、民間、行政が連携し、ここまで形になっているものは珍しく、当プロジェクトの進め方や考え方は今後の財産となる。
- ・美作地域の人口減少という課題に対して、地域経済活性化のための「観光」の視点は非常に大きい。外から来た方に地域の魅力を見てもらうことで、誇りとなり、地域の魅力に磨きがかかる。これからも「食」という切り口で、地域を元気にしていきたい。引き続きご協力をよろしく願います。